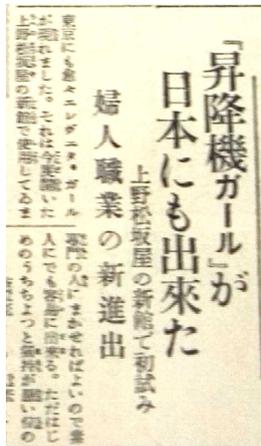


職業婦人の新たな進出の場となった —花形職業だったエレベーターガール—

■エレベーターガールという職業の誕生

初めてエレベーターガールが登場したのは、1929(昭和4)年4月1日、東京上野の松坂屋上野店である。当時の新聞は、「昇降機ガールが日本にも出来た」「婦人職業の新進出」と、興奮気味に報じている。エレベーターガールは「昇降機ガール」と呼ばれた。松坂屋上野店は、1924(大正13)年9月の関東大震災で焼け落ちたが、1929(昭和4)年にルネッサンス様式の建物として再建された。このとき、床面水平式で自動式開閉装置の付いた最新式のエレベーターが導入され、女性でも簡単に運転できるようになり、また来客により印象を持ってもらうようにとの目的で設けられたのである。フェルトの帽子にしゃれた制服、白い手袋姿のエレベーターガールは、昭和モダニズムを象徴するといわれる。それ以前は、エレベーターの運転は主として男性職員の仕事であ



昇降機ガール登場
出典：『読売新聞』1929年4月8日



松坂屋上野店のエレベーターガール (1929年4月)
出典：『松坂屋百年史』

ビルの華もてなしの50年



31日で業務を終える中日ビルのエレベーターガール一名古原・麻子

中日ビル

昭和の象徴パブル崩
1929年初登場
エレベーターガールは、昭和の象徴として、パブル崩壊まで活躍した。1929年4月1日、東京上野の松坂屋上野店で初めて登場した。当時の新聞は、「昇降機ガールが日本にも出来た」と、興奮気味に報じている。エレベーターガールは「昇降機ガール」と呼ばれた。松坂屋上野店は、1924(大正13)年9月の関東大震災で焼け落ちたが、1929(昭和4)年にルネッサンス様式の建物として再建された。このとき、床面水平式で自動式開閉装置の付いた最新式のエレベーターが導入され、女性でも簡単に運転できるようになり、また来客により印象を持ってもらうようにとの目的で設けられたのである。フェルトの帽子にしゃれた制服、白い手袋姿のエレベーターガールは、昭和モダニズムを象徴するといわれる。それ以前は、エレベーターの運転は主として男性職員の仕事であ

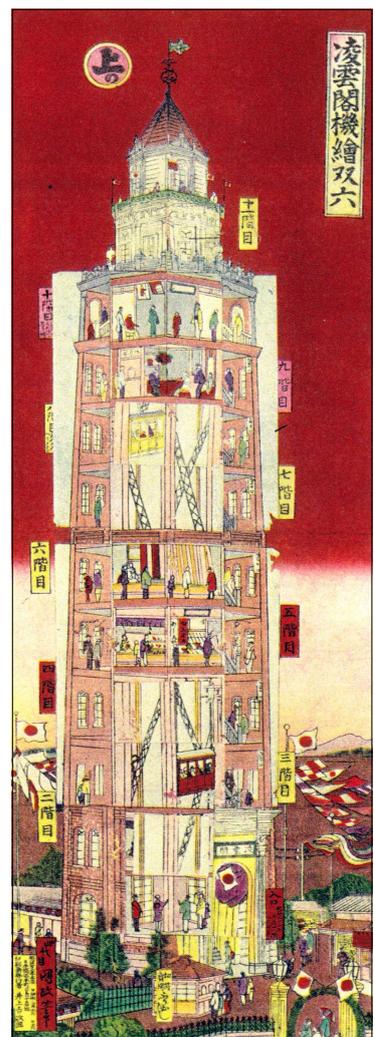
中日ビル、最後のエレベーターガール
出典：『中日新聞』2018年3月29日

エレベーターガール 今月限り

あった。松坂屋のエレベーターガールは大変好評だったので、瞬く間に全国の百貨店に普及したといわれる。その後、装置の自動化が進み、一方経費節減などが理由で、エレベーターガールはほとんど見かけなくなった。松坂屋上野店も2006年4月に廃止された。名古屋地区でも、エレベーターガールの運転していた栄の旧中日ビルが惜しまれながら解体され、2019年3月からはその姿を見ることがなくなった。

■浅草凌雲閣で初のエレベーター運転

1890(明治23)年11月10日、日本で初めて電気動力(7馬力)によるエレベーターが東京浅草の凌雲閣で運転を開始した。会社設立届には「電気ノ作用二依リ「エレベートル」ヲ以テ縦覧人ヲ収ムルヲ以テ目的」と書かれている。この日を記念して11月10日は「エレベーターの日」と定められている。しかし前評判にもかかわらず、凌雲閣のエレベーターは故障が多く、7ヶ月後の1891(明治24)年5月には危険であるとして運転中止になった。



凌雲閣機繪双六
出典：『東京電灯五十年史』

(浅野伸一)